

活動地

マレーシア ボルネオ島サラワク州 & 半島部クダ州



クダ州ムルボック湿地保護林
マングローブ林再生プロジェクト



サラワク州アペン国立公園
青少年研修プログラム



クダ州「マングローブ林再生プロジェクト」

マングローブ林が生育する湿地帯は、世界の陸地総面積のわずか3%ですが、世界中の陸地に蓄えられている炭素量の30%を保持していることから、生物多様性の保全だけでなく、地球温暖化防止のためにも、マングローブ林の再生は喫緊の課題となっています。

「木下の森」植林プロジェクトでは、2019年度から、マレーシア半島部クダ州ムルボック湿地保護林において、マングローブ林再生プロジェクトを実施しています。

同保護林は、マレーシア半島北部に位置し、スマトラ島沖大地震が発生した際に海岸沿いで津波被害を受けた地域にあります。森林の構成樹種が多く、鳥類が約80種類確認されているなど、多様な生態系が見られます。しかしながら、周辺地域の開発や伐採等による森林の劣化、消失が進んでおり、森林だけでなく、地域に暮らす漁民の生活環境にも影響が出てきています。

本プロジェクトでは、地域社会やマレーシア理科大学等との協働により、育苗・植林と環境教育プログラムなどを行い、マングローブ林の再生による生態系の保全と、炭素貯蔵地として貴重な湿地を守る活動を行っています。

2018年11月、マレーシア政府は活動地を含む一帯を「ジュライ・ジオパーク」と定め今後、ユネスコ世界ジオパークの認定を目指すことが表明されました。

「木下の森」が世界のジオパークの一つとなるよう、関係者と取り組んで参ります。

ムルボック湿地保護林の森林劣化地域にて、地域の村人、子供たち(小中高生)、教員、大学生、村人らと協働し、育苗・植林作業、苗畑・作業場の整備、地域内外の小中高生や大学生などが参加する教育プログラムなどを行っています。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大による「活動制限令」のため、村人による育苗以外は休止する期間がありましたが、活動制限が緩和された11月以降、地域の村人と青年グループ及び大学生が参加する小規模の植林作業を行いました。

マングローブ育苗・植林活動

4月に地域住民による1,000本の植林を行いました。6月の「活動制限令」発令以降、村人による育苗以外はしばらく休止となりました。8月後半に少人数の村人による200本の植林作業を行い、活動制限が緩和された11月以降、地域の村人と青年グループ及び大学生が参加する植林作業を小規模で実施し、3月末までに5,000本の育苗と3,500本の植林を行いました。

活動地域の小学校と村落における環境教育・生活向上プログラム

マレーシア理科大学、マレー半島北部の行政・教育機関、村人組織と協働し、マングローブ林再生活動を通じた、地域社会のための環境教育及び生活向上プログラムを実施しました。

○「マングローブと私達の暮らし 作品コンテスト」 2021年8月20日～9月25日

参加者 クダ州クアラ・ムダ地区の小中学校生

○活動地域の小学校に環境教育ギャラリーを整備 2021年10月～12月

場 所 ハジ・オマー・タヒール小学校

○バティックと陶芸のワークショップ 2021年11月24日

場 所 ハジ・オマー・タヒール小学校

○スンガイ・バトゥ・ブシ村に環境教育ギャラリーを整備 2022年1月～2月

場 所 スンガイ・バトゥ・ブシ村の共用小屋

○活動地域の小学校で環境教育プログラムを実施 2022年2月9日

場 所 ハジ・オマー・タヒール小学校

Jerai Geopark



ジュライ・ジオパーク(黄線枠)
 ムルボック湿地保護林(赤線枠)

植林活動地(青線枠)

活動の様子



育苗の様子(左)、植林作業の様子(中央・右) (2021年4月)



既植林地域の様子



植林地域の村で今後の活動について協議(左)、地域拠点校で活動展示の打合せ(右) (2021年4月)



活動制限令時も活動地の村人が育苗管理を継続



政府の許可を得て植林作業を再開(2021年8月)



地域の青年グループが植林作業(2021年11、12月)



満潮時の既植栽木の様子(左)、苗床を拡張(右) (2022年1月)



地域住民と現地専門家による植林作業(2022年2月)



2年ぶりに大学生が植林活動に参加(2022年3月)

🌿 マングローブと私達の暮らし 作品コンテスト

期 間 2021年8月20日～9月25日

参加者 クダ州クアラ・ムダ地区の小中学校生

活動制限令による休校期間中に、活動地域の児童・生徒へ教育機会を提供するため、オンラインによる教育プログラムを企画。マングローブをテーマとした物語、エッセイ、写真を募集し、16の小中学校から69作品の応募がありました。その中から優秀作品を選び、9月30日にオンラインで表彰式を行いました。

12月初旬に、マレーシア理科大学担当者が学校を訪問し、コンテスト入賞者への景品を届けました。



作品コンテストのポスター(左)とオンライン表彰式(右)



コンテスト入賞者へ記念品を贈呈(2021年12月)

🍃 マングローブと私達の暮らし 写真コンテスト 優秀作品







活動地域の小学校に環境教育ギャラリーを整備

期 間 2021年10月～12月

場 所 ハジ・オマー・タヒール小学校

地域拠点校のハジ・オマー・タヒール小学校に環境教育ギャラリー用のスペースを確保し、同校児童、教員、父母、地域住民がマングローブ林保全の重要性について学ぶことができるポスター等資料の掲示と壁画の整備を行いました。



活動地域の小学校に環境教育ギャラリーを整備(2021年10月～12月)



活動地域の小学校で環境教育プログラムを実施(2022年2月)

🍃 バティックと陶芸のワークショップ

期 間 2021年11月24日

場 所 ハジ・オマー・タヒール小学校

参加者 村人と学校教員30名

地域拠点校となっているハジ・オマー・タヒール小学校にて、マレーシア工芸局と協働し、地域の村人が新たな技能を学ぶ機会として、生活向上へ向けた新しい工芸技術を習得するための研修会として、バティックと陶芸のワークショップを開催しました。



生活向上プログラムとしてバティックと陶芸のワークショップを開催(2021年11月)

🍃 スンガイ・バトゥ・ブシ村に環境教育ギャラリーを整備

期 間 2022年1月～2月

場 所 スンガイ・バトゥ・ブシ村の共用小屋

現地活動の中心となっているスンガイ・バトゥ・ブシ村の村人組織が管理する共用スペースを補修整備し、マングローブ育苗・植林活動に参加する人々がマングローブ林保全の重要性について学ぶことができるパネル資料の掲示を行いました。



活動地域の村の共有スペースに環境教育ギャラリーを整備(2022年1月～2月)